

69.001.3

696.6

NI,2

建築工事標準仕様書・同解説

JASS 101 電気設備工事一般共通事項

JASS 102 電力設備工事

日本建築学会



ご案内

日本建築学会の出版物の著作権・出版権を守るために、著書・論文等への引用・転載は必ず本会の許諾を得てください。

コピーも私的利用の範囲を超えることは法律で禁じられています。

社団法人 日本建築学会

序

本会は、去る大正 12 年に建築施工技術の向上を図るため、委員会を設けて、仕様書の標準化に着手致しました。以来昭和 16 年までの間に、建築主体工事に関しては 16 の標準仕様書が作られ逐次会誌をもって発表されたのであります。その間においても技術の進歩、材料の変遷等に即して、改正が企てられましたが、当時緊迫化を辿りつつあった内外の諸情勢は、それを果さしめないまま遂に終戦を迎えたので、仕様書の改正を断念し、委員会も廃止して終ったのであります。

終戦後の混乱無秩序は、応急需要と相俟って、低劣な質の建築生産がなされて、真の建築復興の将来は実に暗澹たるものでありました。しかるに進駐軍施設の建築需要が盛んになるに及んで、否応なしに海外技術の移入が行なわれるようになって、これが戦時中に低下したわが建築技術の回復に多大の刺戟を与えたことは事実として認めない訳には行かなかつたのであります。昭和 24 年頃からは、国力も稍回復を見せたので、従って建築物の質的改善の要請が起って参り、翌 25 年 5 月には、建築基準法が制定実施に移されて質の向上が法的にも要求されるようになりました。

それに先だつて、いわゆるビルブームの兆が現われ始めましたが、25 年 2 月建築制限がほとんど廃止されてからは、永らく抑制下にあったビル建築が一斉に勃興したので、これに対処するためにも、施工技術の高度化が要求されるに至つたのであります。そればかりでなく、わが国が戦争のために空白にした 10 年間と、この間の海外における建築技術の著しい進歩に鑑みても、当然施工技術の合理的改善を行わなければならない情勢にあったのであります。即ち経済性を基調に、移入技術の応用、わが国における研究成果の活用等によって、簡易化・機械化を図ることが当面の重要な課題となつて来たのであります。

本会においては、これらの重要性を考慮し、昭和 26 年 5 月には、標準仕様書の全面的更改と材料規格の調査を目的とする「材料施工規準委員会」を設け、広く建築界各層の技術者および設備技術者等約 230 名を委員に御依頼して発足願つたのであります。

幸に委員長始め委員各位の熱誠なる御努力が実を結び、逐次発表を見るに至りましたことは建築界のためにも、誠に欣ばしいことでもあります。この仕様書が一段階となつて、今後益々施工技術の進歩改善が期待される点は決して慥くないと信じます。

本会においても、本事業が建築界に大きな期待をもたれていることを察知致しまして、28 年度事業としてこの仕様書による講習会を全国的に催し、速かな普及に資することに致しました。そのため解説の執筆など委員各位の御多忙を知りつつも相当御無理を願つた点多くあることを恐縮に存じております。

本書の刊行に当りまして、委員各位の御尽力はさることながら、これを御支援御協力せら

れました会員初め官民各方面の職場に対しましては深甚な謝意を表しますとともに、この仕様書の普及実行に一層の御協力をたまわらんことを望んで已まない次第であります。

昭和 28 年 11 月

日 本 建 築 学 会